

## 大学満足度調査から見た大学教育の今後の課題

足立 寛（ベネッセ文教総研主任研究員）

ご紹介いただきました足立でございます。私の方から1時間頂戴しましてご報告いたしたいと思っております。お手元にB4横形で資料をお配りさせていただきました。それに沿いましてご報告をさせていただきますが、私自身も今日いらっしゃる皆さん方にいろいろお教えいただきたいと思っております。私はベネッセコーポレーションという会社に勤めております。昔は福武書店という名前でしたので、そちらの名前の方がご存じの先生もいらっしゃると思います。よろしくお願いたします。

ページを1枚めくっていただいた裏ですが、今回ご報告させていただく調査ですが、一昨年から去年にかけて5つ位の調査をしております。当レジメに対応する項目番号をつけておりますので、後でご説明する中で、その資料がどこの調査に基づいているのかを見ておいていただければと思います。そこには概要だけ載せておりますが、1つは高校生に対する調査です。97年11月から12月、高等学校経由で配付、回収しております。高校2年生の7,957名のデータをもらっております。2つ目は、今回メインでご報告する大学生の満足度調査です。郵送によるアンケート調査で、集計数は1万4,591名とりました。ゼミレポーターと申しまして、私共は進研ゼミという通信教育をやっていますが、その高校講座を卒業して大学生になった人たちに調査を依頼して集計いたしました。3番目、4番目は、高校の教師、保護者です。今回は、ごく一部の資料に併用して使うという程度でございます。それから、後半の方で、大学人の意識調査の資料として、去年の11月から12月にかけて、大学の学長と学部長、そして私立大の理事長の方々にアンケート調査を行っております。回収数は、1,033件です。国立大学の学長、学部長は6割を若干越える位の集計数でした。

それでは資料1からご覧ください。まずは、高校生がどのような意識で大学に期待をしているのかといったことからまずご覧いただきたいと思っております。志望校を決定する時に重視することと出ておりますが、この項目は全体の数値の高い順に並べております。1番目が、「専門を深く勉強できる」。2番目が、「施設、設備が充実」。3番目が、「目指す資格をとるのに役立つ」。4番目が、「広く教養が身につく」。5番目が、「一段と人間として成長できる」。こういった項目がベスト5になってくるわけです。これらの項目を男女比で見えてまいりますと、大体の項目で女子の方が大学教育に、または大学の機能そのものに対する要求度合いは高いということがわかり

ます。とりわけ、3番目の「目指す資格をとるのに役立つ」、それから下から4番目の「語学教育が充実しており英会話が学べる」、といった項目の要求度合いがとくに強いことがわかります。これに対して男子の方が女子よりも大学に期待する項目が高いというものはあまり見あたらないのですが、まんなか位に「これからの社会で要求される問題解決能力等が身につく」とか、「コンピュータ関係の教育が充実している」、「クラブ、サークル活動が活発」、こういった項目では女子よりも男子の方が要求度合いは高い。特に高いのは「コンピュータ関係の教育が充実している」という項目で、理系志望の生徒は男子のほうが多いということも影響しているようです。こういう中で、資料2は学部によってはもう少し特性が違うだろうということで分けてみたものです。「とても」と「まあ重視する」を足したパーセンテージで出ておりますが、70%以上の数値に網かけをしております。○印はそれぞれの学部系統の中で最も高い数値の部分を示しております。やはり、「専門を深く勉強できる」という項目は全体でもトップですが、学部系統別に見てまいりますと1番低いのが経済学部です。58.8%と一見、高い数値のようにも見えますが、他学部と比べると非常に低いことがわかります。こういったことから経済学部というのは、どちらかというともラトリウム志向の生徒が集まる傾向が強いです。一方、中教審等の答申でも必要性が強調されていた、「これからの社会で必要とされる創造力、問題解決能力等が身につく」といった項目に関しては、どの学部の数値を見ていただいても並べて低いことがわかります。一番高い数値は学際系になりますが、それでも66.7%です。やはり、社会で必要とされる創造力や問題解決力といわれても高校生の段階ではピンときていないことが、これでも見て取れるのではないかと思います。また、「目指す資格をとるのに役立つ」といった項目では、高い数値が出るの学部系統は、外国語、教育、家政、医療、福祉、看護といった学部です。逆に4番目の「広く教養が身につく」という項目で高い数値の学部を見ますと、人文、外語は重なりますが、法学、経済といった学部が高くなっています。これらのことより資格取得志向と教養志向は、学部系統でもかなり明確に分かれてくることがわかります。

次の資料3では、入学する際の志望理由、つまり勉強したいから大学へいくのか、実学を学びたいから大学へいくのか、そうではなくモラトリウムの気持ちで何となくいくのか、そういったことと学部系統別の関係についてはどういう傾向が見て取れるかということを見てみたいと思います。上から4つの項目が「学習志向」から大学へいきたいと思っている学生です。「学習志向」としてトータルで見えていただきますと、比較的比率が高いのは、網のかかった外語、学際、理、農水といった学部系統になります。次に、「自分の適正」で向いているという項目では、人文、学際系統が高いようです。また、「実学志向」という項目で上がってくるのは法学部、教育、医療学系統。そして、「モラトリウム志向」で最も高いのが経済という形になってまいります。つぎに資料4では、こういった高校生の大学への期待感が、保護者と高校教師と比べてどう違うのかといった点を示しています。明らかに高校生の場合は、勉強志向も強い反面、もう一方で、生涯付き合っていける友人が見つけられるような環境をつくってほしいとか、青春の一時ゆるくり休ませてほしい、楽しませてほしい、といった教育だけではない部分も非常に求めていることがわかります。つまり二面性があるということです。ところが保護者はしっかりとした勉強を

させてくれという学習機能に期待する項目がはるかに高い。とくに「授業を厳しくやってほしい」という項目では、保護者と生徒では大学の期待度は大きく違っていることがわかります。

次にページをめくっていただき資料5となります。今度は、大学生に調査した数値でとりました。1万4,591人の大学生で、大学に入ったばかりの1年生ですと、その大学のこともよくわからないだろうということで、2年生以上の大学生を対象にしております。ただ、先ほどゼミレポーターと申し上げましたが、進研ゼミの通信教育を出て大学に入って、しかもその大学のことを我々に対してキッチリ答えてくれる大学生というのは比較的眞面目な大学生です。ですから、そういう意味ではごく一般的な大学生の平均像かといわれると、そうともいいきれないだろうと思っております。ですから、そこは差し引いてお考えいただければと思っております。そういう中で、大学入学時の「期待度」というのはさきほどの高校生の調査と同じように、合計と男女別に出しております。やはり、高校生の場合と同じで「専門科目の学習」という項目がもっとも高いのですが、一方で、「友人との交流」だとか「クラブ、サークル活動」、「趣味や旅行」といった項目もかなり高くなっています。高校生の段階では学習以外の理由から大学を選んではいないのですが、大学に入ると余裕もできてきたということもあるのでしょうか、学習以外の項目でも大学に求める度合いが高くなるようです。ただ、それでも学習面で考えていただきますと、ほぼ高校生の要求の度合いとよく似ていることがわかります。男女別に見ると、女子学生の方が大学の様々な機能、教育に対する要求度合いは高いということは高校生と同じでございます。男子学生が高いのは、「情報処理関係科目の学習」という項目だけです。これも、高校生の調査結果とよく似ています。ただ、項目を絞って高校生と大学生の違いを資料6で比較してみます。「専攻する学問研究」という項目では、大学生も高校生も80%以上の要求度合いとなっています。ところが「資格や免許の取得」に関しては高校生のほうが高く、「専攻する学問研究」では大学生のほうが高い要求度合いとなっています。これは、高校生のときはよくわからなくて資格の取得くらいでしか大学の機能を測るものがなかったが、大学に入って本当の学問の面白さに目覚めて、専攻する学問研究でもっと突き詰めて考えたいと思うようになった大学生が増えているからなのだろうと思います。

つぎに、資料7で大学生の学部系統別に見た大学への「期待度」を見てみます。縦軸に資料5と同じような項目を並べ、それを学部系統別に見た時に、「特に」「とても」「まあしたい」を足して最高値にマルを。最低値に網かけをしております。これを見てまいりますと、たとえば医学部、薬学部といった医療系統では、一般教養的学習というのが、「とても」「まあしたい」を足しても他の学部比べて40.9%と1番低い数値になっています。医者というのは、人と接する仕事であるにもかかわらず、最近はそのような医者としての適正能力に欠いたような学生がひき起こす事件なども出ています。そのような意味ではやはり、一般教養的な学習というのはあまり関心がないというような医学部の学生が多い傾向には、大変危機感を覚えます。2番目の、「語学への学習」では、1番低い数値の学部は理学部、ついで工学部となっています。このあたりも、今後のグローバル社会のなかでいくらすばらしい研究をしても、世界に伍していくためには外国人の研究者とコミュニケーションを図り、情報を密にしていくことがなによりも求められてきま

す。そういう意味では、こういった点についても今後の非常に大きな課題ではないかと考えております。

資料8は、そういった中で、各学部系統に「期待度」の項目を「とてもしたい」「まあしたい」の合わせた数値の高い順に並べております。どの学部系統もほぼ似通っているのですが、1番目に「趣味や旅行」がくるか、2番目に「専門的学習」がくるかということで、モラトリアム人間が集まりやすい学部か否かというところで少し分かれるような気がいたします。ちなみに人文系、経済系、教育系といった学部は「趣味や旅行」がしたいというふうな項目が1番高い数字になっています。

さて、こういう期待を持って学生が入学してくる中で、入ってからの大学に対するギャップ感はどうなのか、という点に話を進めさせていただこうかと思います。資料9ですが、大学入学前と現在と、どんなことにギャップを感じるのか。まずは全体というところをご覧ください。「入学前のイメージとギャップあり」という項目では69.8%、ほぼ7割の大学生がギャップを感じております。その中でもトップなのが「講義が面白くない」。これが70%占めております。男女別で見ても見まわりますと、このような授業に対して不満感を持っているのは女子学生よりも男子学生の方が高いことがわかります。一方、女子学生の方が男子学生よりも大学に対する不満感を特に持っているのは「就職状況がよくない」という項目です。それ以外では、「クラブ、サークルがつまらない」という項目も女子学生の方が若干高い傾向が出ています。ちなみに集計した調査対象大学は191大学ですが、設置者別で見ると、どの項目も比較的私立大学で不満感が高くなっている傾向が強いことがわかります。ただし、「講義が面白くない」「就職状況がよくない」という2項目に関して見ていただきますと、国立大学で数値が1番大きいという結果が出ております。わかりやすい授業の展開や就職指導に関しては、私立大学は大学全体で熱心に取り組まれている傾向もありますが、国立大学では教員1人1人にまかされている面が多く、まだ殿様商売的な感覚があるのだろうと感じております。ただ、今後、国立大学も独立行政法人化が見えてくれば、競争的環境のなかで、それぞれの大学の機能に応じた取り組みを大学全体として推進することにつながってくるので、国立大学の中でも評価の格差は広がってくるだろうと思います。

さて、次にそれぞれのギャップを学部系統別に見てみたものが資料10です。まず、全体的に「入学前とのイメージ・ギャップ」が1番大きい学部は外国語学部で、77.1%とほぼ8割を占めています。おそらく、その理由の1つとして外国語学部は近年、国際学部とか国際言語文化学部とかいろいろな学部名称に変わってきたのですが、実態以上にいいイメージを受験生の段階で持ち過ぎてしまっているからではないかという気もしております。それから、「講義が面白くない」という項目で1番高い数値になっているのが経済系で75.6%となっています。もともとモラトリアム志向の学生が多いことに加えて、大教室での一方的な講義が多いことも、その理由としてあげられるようです。「やりたい学問分野と違う」という項目は、理学部が1番高く、51.6%となっています。やはり、高校生ではイメージしづらい学部系統でもあるためだろうと思います。また、「気の合う友人が少ない」、「クラブ、サークルがつまらない」といった項目では、不満を感じている学生はどの学部も2~3割といった程度で、それほど学部によって差はありません。

ただ、就職状況がよくないようだというのは、圧倒的に教育学部で多く、65.1%となっています。やはり教員採用試験の厳しさが学生の意識に如実にあらわれているようです。

つぎに資料11をご覧ください。これは、先ほど資料3で高校生の場合でも見ましたが、縦軸は大学に入った時の志向です。勉強がしたいから大学に入ったのか、あるいは大学の情報をいろいろと見て決めた、難易度で決めた、就職状況で決めた、経済的理由で決めた、というふうな選択項目で分けて、横軸はそういった志向別に入った学生が大学にどのようなイメージ・ギャップがあるのかを出してみたものです。資料10は○をつけたのは高い数値だったのですが、資料11は○をつけているのは低い数値になるのでご注意ください。まず、学習志向で入った学生というのは、他の志向で入った学生に比べると授業に対して不満は比較的低いことがわかります。ただ、それでも「講義が面白くない」「授業に手ごたえがない」「教官との交流が少ない」といった「大学での教育」についての項目では52.8%がギャップを感じています。一方、それらの項目で一番不満を感じている学生は、どういう理由で入ったかといいますと、(b)の大学情報志向、特に有名大学であるかどうかといったイメージだけで入学した学生というのは強い不満感を持っています。それから、(e)の経済的要因として、家から出ることができるから大学を選んだという学生も、やはり不満感が強い。つまり、大学のブランドやイメージで入った学生ほどギャップ感が大きくて、きっちり大学の中身で学べることを探して、教授陣だとか、大学院にいけるからだとか、そういった目的を持って選んだ学生ほど大学教育への不満感はそれほど強くないことが指摘できます。

次の資料12では、大学の学習関連の質問項目を抽出しまして、学生による5段階評価の数値を出しております。ここで3.0を下回っている項目が、今の大学教育に関する、学生から見た場合の課題点ではないかというふうに思っています。そこで、3.0を下回っている項目を抽出してみますと、「わかりやすい授業が多い」、「教材研究のよい授業が多い」、「指導上工夫している教員が多い」、「取りたい授業が取れる」、「授業研究で一体感が持てる」、「授業中の私語が少ない」、「授業以外でもコミュニケーションが取れる」といった項目があがってまいります。こういった項目を見てまいりますと、今いろいろと大学改革ということで大学組織としての工夫をなさっていらっしゃいますけれども、何れも大学の教員の先生と学生との個人的な関係の中で満足度が決まってしまうような感じがいたします。ですから、そういう意味では大学が組織として打つべき手としては離れてしまっていると思います。よくFD活動とか言われていますが、大学組織からは見えない教員1人1人の意識の改革こそがこれからの大学で特に求められているという感じがいたします。そういった面では、非常に口コミの怖さというのを痛感しています。今日は、いろいろと論文をお書きになっていらっしゃる先生方ばかりなので恐縮してしまうのですが、私自身は何年も高等学校を仕事で廻らせていただいております。ですから、高等学校では生徒対象に講演を年間で何十校かしております。最近まで私は1999年4月まで小社の東北支社にいましたが、ある高等学校を訪問していたときのことで。ある先生が職員室で、放課後に質問のために並んでいた高校生の相手をしていました。そこに、その高等学校を卒業した地元私立大学の学生が、母校の恩師であったその先生のところに来たんです。先生に「どうだ、あの大学は」といわれた

時に、その学生は「全然面白くないですよ、一方的な授業ばかりで・・・」と延々、自分が入った大学の授業のひどさを訴えました。その話を横で高校生達が聞いているんです。それだけで、翌年、その大学へその高校からの志願者は激減していました。これは、大学の方が高校へ訪問されて進路指導室だけで話をしてもわからない現象です。こういった口コミというのは、ボディブローのように効いてくるのではないかというふうな気がしております。ですからこそ、まず在学生のために大学は何ができるかといったことを真剣に考えていく必要があります。

さて次にページをめくっていただきます。資料13、14は、縦軸に資料12と同じ大学の学習に関する項目をとり、横軸に設置者別および学部系統別にとってクロス集計してみた数値です。学部系統を見た時に、それぞれの学部系統でどの項目に学生はもっとも不満を感じているのかというのが、はっきり見えてきます。1番低い数値を拾い上げて見てみます。例えば、人文学部や外国語学部ですと、「定員枠等に制約されず取りたい科目が取れる」というのがもっとも低い満足度になります。法学部、経済学部は、「授業や研究で教員と一体感が持てる」という項目がもっとも低い満足度になります。教育学部ですと、「施設、設備が充実している」というのがもっとも低い項目です。総合科学系統や生活科学部系統ですと、「教材をよく研究されている授業が多い」というのがもっとも低くなります。理学部、工学部は、「わかりやすい授業が多い」というのがもっとも低い項目になります。医療系ですと、「他の学部の学科や専攻の授業が取れる」というのがもっとも低い項目です。農水産学部系統ですと、「語学教育が充実している」というのがもっとも低い。以上のように、学部によって授業の中身、項目で見えてまいりますと、もっとも低い評価の項目でもバラつきがございます。だからこそ、それぞれの学部にとってこういった項目で満足度をあげるからこそが、大学教育の改善に向けてのもっとも重要な課題であり、ひいては他大学との差別化につながることにものともなると考えております。

次に資料15をご覧ください。実は、こういった満足度調査は1994年にも同じような項目で、私共ベネッセ文教総研で調査しております。今回、97年と、この3年間でどう変わったかを見てみました。この結果を見て私も多少ショックでした。というのは、今、大学改革がいろいろと進んでいるので、もっと満足度は上がっていいはずだろうというふうに思ったのですが、「とても」というのが2、「まあ」で1点の得点換算をしてみまして、最高値が200点で見た時に、実はほとんどの項目でこの3年間で満足度が落ちております。この理由というのはなかなか難しいのですが、まず考えられますのは、大学改革が組織としては進んでいるのに、教員と個々の学生とのコミュニケーションに立脚した教育に対する教員側の意識の改革がなかなか進んでいない、またそれ以上に学生側のニーズが多様化してきて、その多様なニーズに大学側がなかなか追いついていないのではないかと。そういう気がいたします。

さて、小社は進研模試という模擬試験を高校生の時からやっております。延べで450万人位の受験生になります。1回の試験で、多いところでは47万人位集めます。そうした中で毎年、可否の追跡調査を行い、合格者の平均偏差値を出しております。その偏差値帯別に大学を区切って見た場合に学生満足度がどう変わってくるのかを見てみたものが資料16でございます。横軸に合格者の平均偏差値をとり、縦軸に5段階評価における満足度を出したものです。「人間的成長度」

や「授業の総合満足度」は、大体においてはゆるやかながら、合格者の平均偏差値と満足度は比例の関係にはあります。しかし、それでもすこし目立ちますのは、偏差値75から上ではカクンと落ちています。合格者の平均偏差値75以上というのは、大体、医学部が占めてまいます。いろいろな意味で医学部の特殊性といったこともあるのだらうと思います。ですから、どのような項目でも偏差値が高いから満足度が高いかという、そうでもないということがわかります。資料17、18、19で見ていただきますと、それがよくわかります。明らかに偏差値が上がれば満足度もあがる項目というのは、資料17の「就職状況」に関する項目です。質問内容が「就職状況が良くないようだ」という内容になっているため、グラフでは偏差値が高くなればなるほど数値は下がる形になっています。また、資料19で見ますと、「学問分野の専門家として優れている」や「著名な先生の授業が受けられる」という項目も偏差値に比例して上がってまいます。しかし、それ以外の項目は、それほど偏差値帯によって満足度が上がったり、下がったりという正比例や反比例の関係があるようには見受けられません。私は平素、入試の分析をしておりますが、大学淘汰というのはそれぞれの偏差値帯毎に起こるだらうと見ております。要するに、今の受験生というのは、併願校数を絞り込んできています。その中で、それぞれの偏差値帯毎に学力レベルが違うわけですが、要は、その偏差値帯の中で受けるのだったらこの大学だというふうに絞り込んできているということです。ですから、例え偏差値が高くても同じような大学がいくつかあったら、その1つにしか絞り込まれないわけです。昔のように、学力レベルの高い大学を全部受けるということではなく、それぞれ偏差値帯毎に絞り込んでいきます。そういう意味では、これからの大学というのは、偏差値帯の中でそれぞれの競争関係にある他の大学に比べて、どんな魅力づけができるのかということがカギになります。決して偏差値を上げることが魅力づけにはならないだらうというふうに考えております。

さて、次にページをめくっていただきます。こういった学生満足度は、新設の大学学部では何か特徴があるのかという事を調べてみたのが資料20です。やはり「新しい分野」であるとか、「施設・設備」、「語学」、「情報処理」、「視野を広げる」といった項目は新設大学学部の強みだと思います。逆に、新設以外の大学学部では、「専門的知識」や「就職・進学」といった項目では強いといった、考えてみるとごく当たり前の傾向が出ました。

さて、以上が大学生の満足度調査の結果からのご報告です。こういった状況を踏まえたうえで、それでは当の大学の先生方はどのような意識で大学教育や大学の機能のあり方を考えておられるのか。次の資料から見ていただければと思っております。

資料21は、冒頭で申し上げた学長、学部長、理事長等の方々に調査した結果から集計したものです。「どのような能力が学生に必要なと思われるか」という質問で、学部系統別に「絶対に必要」とする項目について、70%以上を◎、50%以上を○で表しています。縦軸の項目は、93年の時に大学入試センターが調査をされたものを、調査のご担当であった柳井先生にご許可をいただきまして同じような項目で今回取らせていただきました。見ていただきますとやはり、自己表現力、論理的思考力、文章表現力、発想力、探究心といった能力は、どの学部でもほぼ共通して求められている能力だということはおわかりいただけると思います。また、学部系統で見

ますともっとも全人的能力を求められているのは医学部だという感じがいたします。

これを、入試センターが実施された93年度と数値化して比べて見てみたものが資料22です。ただ、入試センターの調査対象は大学教員であるのに対して、私共ベネッセ文教総研の調査対象は学長、学部長、理事長ですから、大学人といっても厳密には対象が違います。ただ、それを考慮に入れたうえで、比べてみますとこの5年間位で、例えば、協調性や福祉的態度、パソコン操作、機械技術といった項目は、かなり要求度合いが高くなっています。逆にマイナスを表す印として△をつけていますが、探求心、持続力、判断力、語学への関心といった項目はマイナスが目立ちます。ただしこれらの能力を求める度合い自体はマイナスであっても98年度でも高いことがわかります。おそらく、この5年間で大学人が求める資質が変わったというよりは、実際に学生を教える立場の大学教員と、大学や学部全体のことを大所高所から見なければならぬ学長、学部長との意識の違いに起因すると考えたほうがよいかもしれません。つまりあらゆる能力を平均的に求める傾向が強い学長、学部長と、まずは探求心、持続力、判断力、語学への関心といった学習に必要な潜在的能力を最優先に考える大学教員との意識の差が出ていると考えたほうが妥当な解釈かもしれません。

さて、次に今度は入学した学生をどう育てたいかについての大学人の意識を探ってみたいと思います。資料23をご覧ください。「ぜひ育成したい」という項目でもっとも高い能力は、「専門的な技術、知識」、つづいて「実用技能」、「変化する課題の解決力」となっています。一般論で申し上げるならば、やはり研究者養成というよりは、高度職業人養成が第一の目的になりつつある大学が多くなっているという感じではないかと思います。ただ、注目したいのは3番目に多い「変化する課題の解決力」です。これは、資料2でも見ていただいたように、高校生にとってはこの能力について、大学への要求度合いというのは高くないというか、理解できていません。ですから、はっきりいって、入ってくる学生はそういった能力の取得については学習意識や意欲は低いまです。そこで大学人にとっても学生に対してギャップ感が起こってくるのではないかと思います。ですから、これからの大学教育は入ってきた学生に対して、「変化する課題の解決力」が今後の社会を生き抜くうえでいかに必要であるかといった「モチベーションアップのための導入教育」とでも言いましょうか、そのようなものが非常に重要なのではないかというふうに思います。逆に資料2で高校生が非常に志望要因として高かった「専門的資格・免許の取得」というのは、大学側からすればぜひ育成したいという割合はそれほど高くないわけです。ただ、受験生を集めるのであれば、こういったところできちんと条件整備をしておき、そのうえで入ってきた学生には、「単に資格取得だけが君たちの重要なことではない、むしろこれからの変化する課題の解決力というものが重要なんだ」という導入教育を施してやるということが、双方のギャップ感を埋める1つの大きなポイントになるのではないかというふうに思っております。

それから、資料24は、資料7と基本的に同じ資料ですので飛ばします。資料25は大学改革の状況について、大学人の自己採点の回答と、それらの項目に関する大学生の評価の回答とを比べてみたものです。例えば、「教授方法の改善」について「これまでとても力を入れてきた」と思っている割合は15.2%しかありません。また、学生側も「教授方法の改善」に関わる項目につい



ては、ほとんど3.0を下回っており、評価が低いといったことがわかります。これらのことより、ほぼ大学人の自己評価と、学生の満足度評価というのは似通っているようです。ただ、ここで大学側の回答というのは、学長、学部長、理事長クラスですから、そのあたりと実際に教えられる教授の先生方との意識というのはどの程度の差があるのか。そういったことも注意しておかないといけないと思います。つまり、いくら学長、学部長、理事長クラスの大学人が「教授方法の改善」が必要だと思っても、肝心の大学教員自身がそう思って真剣に取り組まなければ、本当の大学改革は進まないと思います。あと、資料26、27、28というのは、こういった能力を学部系統別や設置者別に見て、どのような特徴が見られるかを調べたものです。時間がありませんのでここではふれませんが、ご参考程度に見て下さればと思います。

次に、最後のページです。これからの大学の機能・役割に関して、大学人はどのように考えられていらっしゃるのかということを見てみたいと思います。これまでも大学の機能的分化にしまして、46答申や臨教審の時から、職業大、教養大、研究大のような論議がなされていたようでございます。ただ、その後第二期ベビーブームを迎えて、どの大学も志願者が殺到し、ミニ東大を目指した時期でした。果たしてその頃からしっかりとした機能的分化をどれだけの大学が認識できて、実行できていたかという点と難しいのではないかと考えています。ただ、18歳人口が減少し、ようやくここにきて、将来の日本の大学はどうなるべきかといったことで調査してみると、資料30にもありますように、「大学は現在、機能分化を進めるべきだ」という項目では、「とても思う」と、「多少思う」を足した数値ですと79%となり、ほぼ8割の大学人は機能的分化を進めるべきだと肯定していることがわかります。そのためには「大学淘汰も仕方がない」と答えている大学人も肯定派は71%です。ただ、問題は機能的分化をどういう方向にもっていくのかということです。大きくは研究大学といましようか大学院教育に重点を移す大学、また職業人養成大学といましようか実社会で役立つスキル取得に重点を移す大学、そして教養大学といった教養教育を再評価する大学といったタイプに分かれてくるだろうと思います。これらのうち、「とても思う」と「多少思う」を合わせた肯定派の比率が高いのは、「教養教育を再評価すべき」という項目で約8割を占めています。ただ、これも、教養教育というのは何をもって教養教育とするのか、これは大学人によって解釈がまちまちです。ですから、偏差値帯で見ましても、どの偏差値の大学でも必要だと答えています。つまり、教養教育というのが非常に高度なりベラルアーツ教育を求めるのか、それとも社会人として最低限必要な知識、技能を身につけさせる教養教育なのか、そのあたりでもやはり変わってくるのだらうと思っています。ただ、「大学院教育に重点を移す大学を多くすべき」という項目と、「実社会に役立つスキル取得に重点を移すべき」という項目については、設置者別や学部系統別に見ると傾向が分かれました。

そこで、資料31をご覧ください。「大学院教育重点の大学を多くすべき」という項目では、設置者別では国立大学、平均偏差値帯別では60以上の大学学部で、学部系統別に見ますと理、工、農、医、歯、薬といった理系学部で「とてもそう思う」と回答している割合が高いといった結果が出ています。また、国立大学のなかでも旧帝大プラス東工大といった難関大学クラスや千葉大、新潟大といった総合大の3割以上は、大学院教育支持派です。これに対して、「社会に役立つス

キル取得に重点を移すべき」と考えている割合が最も高いのが私立大学です。偏差値帯別で見ますと50以下の大学学部で、学部系統別に見ますと法・経・商学部系統で高いという結果です。私立大学のなかでも、地方部の私立大学の方が支持率は高い結果が出ています。つまり、少なくとも研究者や高度職業人養成志向の難関・総合国立大、中堅技術者・職業人養成志向の地方私立大の構造はまちがいになくあると言えます。ちなみに、今年の入試結果を見てみますと、50以下の偏差値の大学というのはほぼ全入状態です。48を下回りますと完全に全入状態になります。おそらく今後、受験生が減ってまいりますので、この全入のボーダーラインは52～53位までは上がってくるのではないかという気はしております。このような大学ユニバーサル化時代においては、高大の接続パターンもアメリカの場合と同様、3パターンくらいに分化してくるだろうと多くの専門家の方々をご指摘されています。資料32では、これを競争選抜型（コンペティティブ）、入学要件選抜型（セレクトティブ）、開放入学型（オープンドア）というふうに分けております。ある中教審委員の方は、私的見解としてですが、競争選抜型2割、入学要件選抜型7割、開放入学型2割くらいに落ち着くだろうと言われました。そして、そうなってくればおそらく高等学校側もこれに応じた形で教育機能の多層化が起こってくるだろうと見ております。普通科（アカデミックスクール）、総合学科（コンプリヘンシブスクール）、専門学科（ボケイショナルスクール）とありますが、ご注意いただきたいのは、ここであげている普通科は、現在の普通科高校よりもかなり限定された成績上位校に限られてくる可能性が高いと思います。現在の普通科も多様化しつつありますので、そういった高校は、ここではむしろ総合学科の範疇に含められてくると思います。最終的には大学の接続パターンに合わせて、高校側も20%、60%、20%というような割合に分かれてくるのではないかと思います。そうした時に、それぞれの大学がどのような人材を育成していくのかということは、そのためにどのような入試を行うのかということと密接につながってくる時代に早急に入ってきたのではないかと思います。

資料33は縦軸に高大の接続パターンをとり、横軸に大学の機能的分化をとったときに、どの枠の中にそれぞれの大学学部が入ってくるのかということがそろそろ明確になってきたのではないかと思います。時間がオーバーしましたので、詳しくお話することは控えますが、たとえば高度学術研究の大学で開放入学型という形はまずないだろうと思い、×をつけています。量的に主流をしめるだろうと思われる枠は◎で表しています。いずれにせよ、これからは大学学部みずからが、どの枠に入り、どういった教育を目指すのかということをも明確に打ち出さないといけない時期にきているのだと思います。私共ベネッセコーポレーション文教総研でもいろいろな情報を収集しながら、これからの高校と大学の接続のあるべき姿をいろいろと調査し、考えてまいりたいと思っております。どうか今後も皆さんのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。最後までご静聴をいただき、ありがとうございました。

調査結果の公開

調査主任 高

(氏名)

氏名

(氏名)

発行 発行

筑波大学大学研究センター公開研究会

大学満足度調査等から見た  
大学教育の今後の課題

平成11年 7月26日(月)  
ベネッセコーポレーション文教総研

足立 寛

(氏名)

氏名

(氏名)

発行 発行

(氏名)

発行 発行

発行 発行

発行 発行

(氏名)

発行 発行

(氏名)

発行 発行

(氏名)

発行 発行

発行 発行

## 各調査の実施概要

### 1、 高校生調査

(調査時期)

1997年11月～12月

(調査方法)

高等学校経由で配布、回収

(調査対象)

全国30都道府県、計58校に在籍する高校2年生

北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、埼玉、千葉、東京、富山、石川、福井、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、鳥取、岡山、広島、徳島、愛媛、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島

(集計数と内訳)

7,957名(男子3,887名、女子3,966名、不明104名)

(当レジュメに対応する項目番号)

1、2、3、4、6

### 2、 大学生調査

(調査時期)

1997年7月～8月

(調査方法)

郵送による調査票に基づくアンケート調査

(調査対象)

調査対象大学に在籍する2年生以上の、ゼミレポーターを中心とした大学生23,618名

(注)ゼミレポーター……A'ネットコネクションの通信教育講座(進研ゼミ・高校講座)を修了後、進学した大学の情報をレポートしてくれている学生

(調査対象大学)

191大学(国立52大学、公立11大学、私立128大学)

(集計数と内訳)

14,591名(2年生5,218名、3年生5,451名、4年生以上3,831名、不明91名)

(当レジュメに対応する項目番号)

5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、25

### 3、 高等学校教師調査

(調査時期)

1997年9月

(調査方法)

郵送による調査票に基づくアンケート調査

(調査対象)

高等学校の進路指導主任と第2学年の学年主任

(集計数と内訳)

3, 131名

(当レジュメに対応する項目番号)

4

### 4、 保護者調査

(調査時期)

1997年11月～12月

(調査方法)

高等学校経由で配布・回収

(調査対象)

高校生調査と共通の高校における2年生の保護者

(集計数と内訳)

3, 363名

(当レジュメに対応する項目番号)

4

### 5、 大学学長・学部長・私立大理事長調査

(調査時期)

1998年11月～12月

(調査方法)

郵送による調査票に基づくアンケート調査

(調査対象)

全国国公立私立大学学長・学部長・私立大理事長

(集計数と内訳)

学長319名(国立57、公立28、私立234)

私立大理事長33名

学部長681名(国立197、公立58、私立426)

計1, 033件

(当レジュメに対応する項目番号)

21、22、23、24、25、26、27、28、30、31

こころを育て、こころを育む

1

5

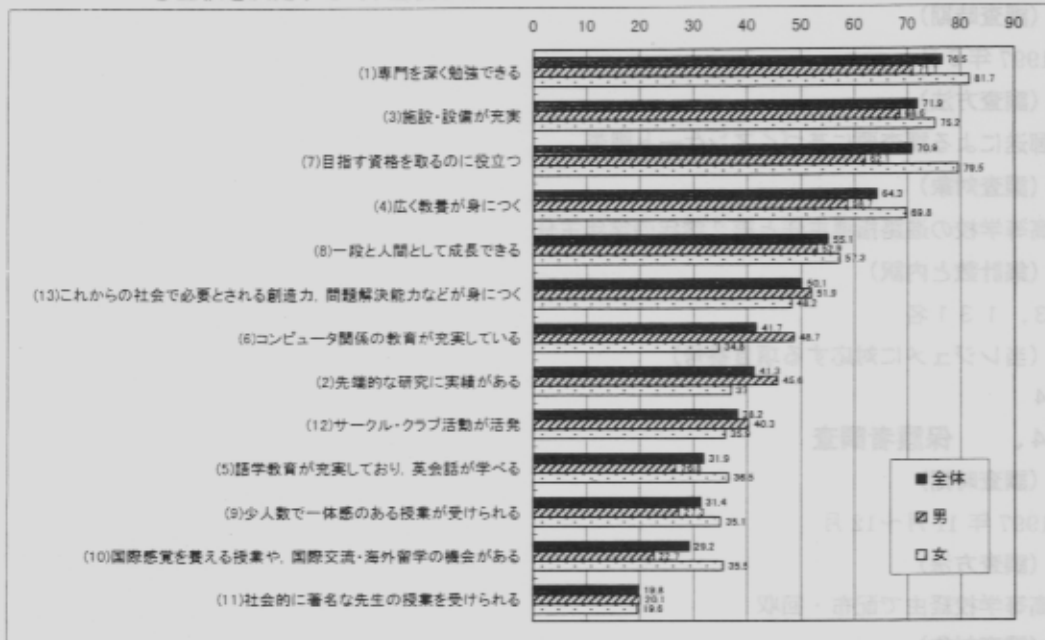
こころを育て、こころを育む

項目	学長	学部長	私立大理事長	計	国立	公立	私立	計
4	319	681	33	1033	57	28	234	319
21	57	197	0	254	57	197	0	254
22	57	197	0	254	57	197	0	254
23	57	197	0	254	57	197	0	254
24	57	197	0	254	57	197	0	254
25	57	197	0	254	57	197	0	254
26	57	197	0	254	57	197	0	254
27	57	197	0	254	57	197	0	254
28	57	197	0	254	57	197	0	254
30	57	197	0	254	57	197	0	254
31	57	197	0	254	57	197	0	254

1

志望校を決定する時、重視すること

受験勉強の準備期間



2

志望校を決定する時、重視すること(志望学部系統別)

(とても+まあ重視する%)

	全体	人文	外語	法学	経済	理学	工学	教育	家政	医薬	芸術	農水	福祉	看護	学際	未定
(1)専門を深く勉強できる	74.1	78.7	81.3	70.0	58.8	70.4	74.7	71.2	85.1	79.8	91.3	79.9	81.7	85.9	80.9	52.2
(3)施設・設備が充実	71.0	72.2	71.5	70.0	59.8	75.7	74.8	61.1	77.7	76.1	73.4	77.2	66.9	77.4	78.8	59.3
(7)目指す資格を取るのに役立つ	67.3	55.2	70.4	69.8	58.1	53.0	64.0	83.2	82.6	85.4	63.3	57.5	86.5	95.7	57.7	56.4
(4)広く教養が身につく	62.3	70.5	75.7	70.3	61.7	62.9	53.0	69.5	64.7	66.5	58.5	55.4	64.1	64.9	70.4	46.7
(8)一段と人間として成長できる	53.7	59.8	58.2	60.2	50.8	51.9	46.9	58.0	50.0	60.2	57.1	47.8	63.4	57.9	63.5	46.2
(13)これからの社会で必要とされる創造力、問題解決能力などが身につく	50.2	54.4	47.1	59.1	48.7	50.6	52.4	45.3	36.5	52.1	58.2	50.6	53.9	39.5	66.7	42.0
(2)先端的な研究に実績がある	43.1	37.2	34.7	42.2	31.9	54.9	56.7	26.2	29.9	62.0	40.9	54.9	28.9	46.2	47.9	25.8
(6)コンピュータ関係の教育が充実している	42.1	35.9	45.6	36.3	48.9	51.3	63.3	28.2	31.2	37.6	26.6	25.5	29.1	23.4	44.4	37.8
(12)サークル・クラブ活動が活発	39.2	43.7	39.8	42.7	43.7	38.5	39.0	43.7	26.5	39.0	33.3	37.4	29.6	27.6	36.5	42.8
(5)語学教育が充実しており、英会話が学べる	31.4	39.4	89.3	39.1	34.0	23.1	23.4	26.6	17.8	28.7	17.0	21.3	19.7	19.4	54.5	24.4
(9)少人数で一体感のある授業が受けられる	29.5	34.6	42.2	27.1	23.4	28.8	26.6	29.8	29.6	32.0	36.5	30.7	31.0	29.0	35.3	19.8
(10)国際感覚を養える授業や、国際交流・海外留学の機会がある	29.2	34.5	81.1	35.0	28.3	25.8	18.6	21.3	20.5	28.8	28.5	22.0	21.1	18.9	58.7	23.8
(11)社会的に著名な先生の授業を受けられる	21.1	25.6	21.3	32.2	21.5	22.8	19.0	16.4	13.5	26.5	28.2	17.7	15.5	12.0	28.6	16.5

70%以上の数値にアミかけしている。○印は、各学部系統で最も高い数値を示す。

(伊勢自動車大学校)

10 20 30 40 50 60 70 80 90

### 3 学部系統別の専攻分野選択行動

(任意に3つを選択) (%)

	全体	人文	外語	法	経済	教育	学際	理	工	医療	農水	生活芸術
1 教育・研究への興味	20.7	24.0	23.9	17.9	17.8	16.4	27.4	22.8	20.2	12.0	25.3	21.8
4 専門・技術の学び	12.8	9.8	15.0	8.5	8.0	11.2	11.9	18.0	20.3	20.7	21.8	16.0
9 講義を受けたい先生	1.3	2.1	0.8	1.0	1.5	0.7	2.0	1.2	0.8	0.3	1.3	1.6
12 思い切り勉強	2.6	4.0	6.0	1.9	1.4	1.3	4.1	2.8	1.4	0.9	2.4	2.2
<学習志向>	37.4	39.9	45.7	29.3	28.7	29.6	45.4	44.8	42.7	33.9	50.8	41.6
2 自分の適性	14.6	18.8	15.1	11.0	13.3	13.4	18.3	16.5	14.2	6.1	13.3	13.9
3 実社会での役立ち	6.8	2.9	5.6	15.3	14.2	2.8	4.5	1.4	5.7	5.3	4.1	6.9
6 資格・免許をとる	10.1	10.3	7.5	9.7	7.4	21.2	6.4	5.8	4.5	22.7	6.0	12.5
5 希望する職業	7.2	4.4	6.4	6.5	4.9	12.6	4.4	5.5	9.1	18.7	7.5	7.4
7 就職有利	4.1	1.3	2.4	10.4	7.5	1.2	1.4	2.0	6.0	5.1	2.2	1.9
<実学志向>	28.2	18.9	21.9	41.9	34.0	37.8	17.8	14.7	25.3	51.8	19.8	28.7
8 教科の得意度	9.1	11.5	11.3	6.0	7.7	9.8	9.1	14.3	9.1	3.3	8.9	7.8
14 何んとなく	3.6	4.4	2.3	3.4	4.8	2.5	3.8	4.4	3.9	1.4	2.4	2.5
10 自由時間がもてる	1.4	1.6	0.2	2.0	3.0	0.6	1.2	0.8	0.8	0.1	1.0	1.0
<モラトリアム志向>	5.0	6.0	2.5	5.4	7.8	3.1	5.0	5.2	4.7	1.5	3.4	3.5
計	94.3	95.1	96.5	93.6	95.3	93.7	95.6	95.5	96.0	96.6	96.2	95.5

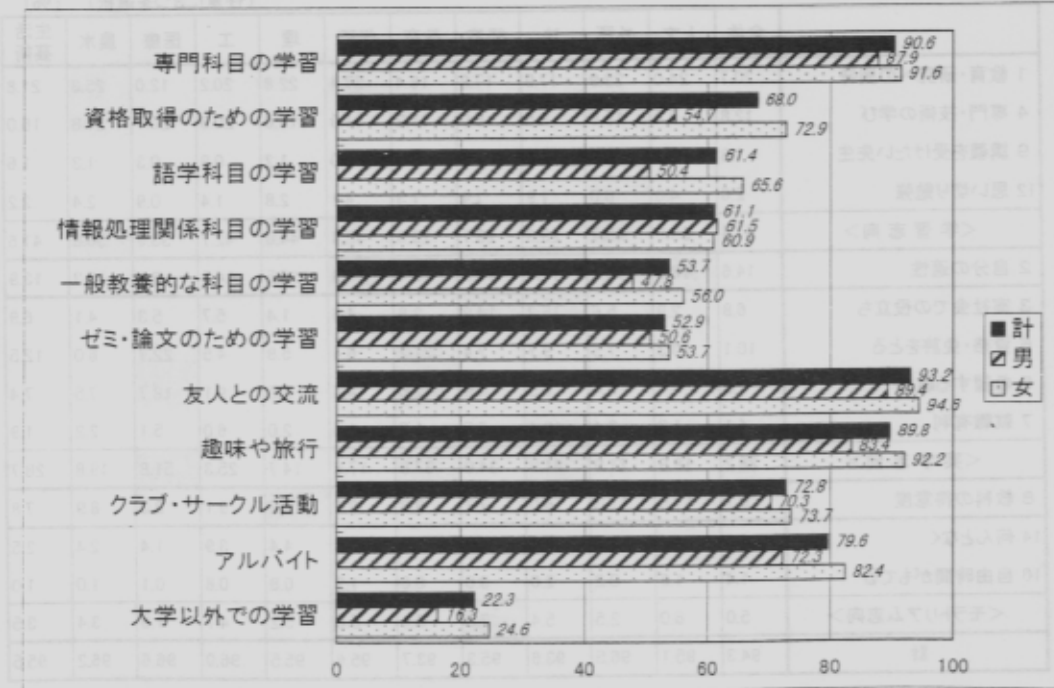
### 4 大学・短大に進学したときの期待

(とても+少し思う%)

	生徒			保護者	教師
	全体	男子	女子		
資質や個性が生かせるような就職ができるようにしてほしい	79.8	75.1	84.4	85.9	—
個性や資質を伸ばせるようなカリキュラムを用意してほしい	79.7	75.2	84.3	90.3	—
一生つき合っていける友人が見つけれられるような環境をつくってほしい	75.8	73.1	78.5	74.2	50.3
しっかりとした考え方や判断力を身につけさせてほしい	74.5	73.2	75.9	90.4	86.6
幅広い教養を身につけさせてほしい	69.8	65.7	73.9	92.1	82.7
せめて1つぐらいは資格をとらせてほしい	69.2	62.2	76.0	72.9	42.1
青春の一時期をゆっくりに楽しませてほしい	67.9	66.1	69.5	48.2	15.0
とにかく無事に卒業させてくれればよい	46.4	48.5	44.4	24.0	7.5
授業は厳しくやってほしい	22.6	23.8	21.5	60.8	—
専門的な知識や技術を身につけさせてほしい	—	—	—	—	93.3
日本や国際社会を背負って立つ人材を育ててほしい	—	—	—	—	71.4
就職指導をしっかりとやってほしい	—	—	—	—	69.7
インターンシップ制をしっかりとやってほしい	—	—	—	—	41.5

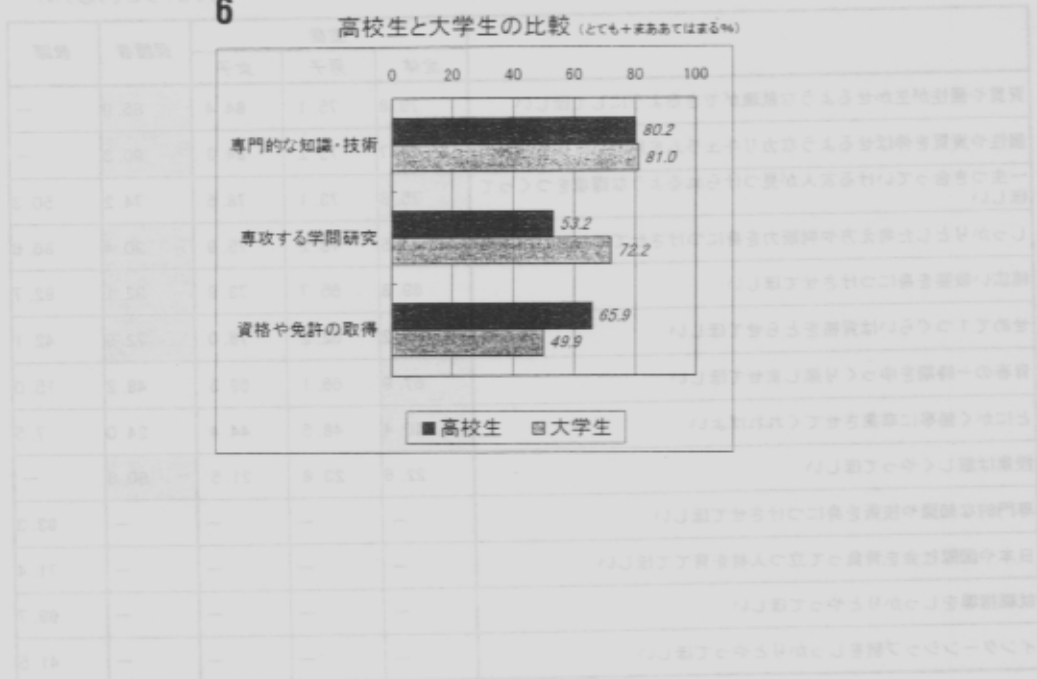
## 5 大学入学時の「期待度」

(とても+まあほしい%)



## 6

高校生と大学生の比較 (とても+まああてはまる%)





## 7

## 学部系統別の「期待度」

(とても+まあいい%)

	全体	人文	外国	法	経済	教育	学際	理	工	医療	農	生活	最高値	最低値	差
一般教養的学習	53.7	61.2	59.6	55.5	52.7	56.4	57.6	47.3	44.0	40.9	44.1	51.8	61.2	40.9	20.3
語学の学習	61.4	70.4	92.2	59.8	59.5	53.2	69.8	44.7	48.3	50.9	56.0	54.7	70.4	44.7	25.7
情報処理関係の学習	61.1	58.4	55.1	57.8	71.2	51.4	66.3	67.8	71.8	46.8	53.2	63.1	71.8	46.8	25.0
専門科目の学習	90.6	91.2	93.8	90.1	84.3	91.8	91.3	95.1	89.6	93.5	95.1	94.4	95.1	84.3	10.8
資格取得のための学習	68.0	70.8	70.7	69.3	69.9	79.9	59.9	49.9	52.1	83.7	58.9	71.5	83.7	49.9	33.8
ゼミ卒論の学習	52.9	56.4	39.3	53.8	57.4	51.8	59.4	51.3	46.4	34.5	63.1	54.8	63.1	34.5	28.6
友人との交流	93.2	94.1	93.5	92.2	94.6	95.7	94.1	88.0	89.0	93.2	94.8	94.8	95.7	88.0	7.7
クラブ・サークル活動	72.8	73.3	67.9	71.3	76.3	75.5	74.7	67.8	68.4	77.9	72.8	73.3	77.9	67.8	10.1
自由時間の趣味や旅行	89.8	92.1	92.2	88.5	91.1	92.9	90.3	82.5	83.7	87.7	89.5	92.3	92.9	82.5	10.4
アルバイト	79.6	80.2	81.5	78.3	81.8	84.9	81.8	73.5	73.2	77.7	76.1	83.4	84.9	73.2	11.7
大学以外での学習	22.3	23.5	25.7	28.4	30.4	17.7	24.3	11.5	13.9	13.9	16.6	22.4	30.4	11.5	18.9

\* 最高値に○印、最低値に△印を付けている

\* 外国語系の「語学」は最高値から外して表示している

## 8

## 学部系統別の「期待度」(したい順)

<全体>		<人文系>		<外国語系>		<法系>		<経済系>		<教育系>	
項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ
専門	90.6	趣味や旅行	92.1	語学	97.2	専門	90.1	趣味や旅行	91.1	趣味や旅行	92.9
趣味や旅行	89.8	専門	91.2	専門	93.8	趣味や旅行	88.5	専門	84.3	専門	91.8
クラブ	72.8	クラブ	73.3	趣味や旅行	92.2	クラブ	71.3	クラブ	76.3	資格取得	79.9
資格取得	68.0	資格取得	70.8	資格取得	70.7	資格取得	69.3	情報処理	71.2	クラブ	75.5
語学	61.4	語学	70.4	クラブ	67.9	語学	59.8	資格取得	69.9	一般教養	56.4
情報処理	61.1	一般教養	61.2	一般教養	59.6	情報処理	57.8	語学	59.5	語学	53.2
一般教養	53.7	情報処理	58.4	情報処理	55.1	一般教養	55.5	ゼミ卒論	57.4	ゼミ卒論	51.8
ゼミ卒論	52.9	ゼミ卒論	56.4	ゼミ卒論	39.3	ゼミ卒論	53.8	一般教養	52.7	情報処理	51.4
大学外学習	22.3	大学外学習	23.5	大学外学習	25.7	大学外学習	28.4	大学外学習	30.4	大学外学習	17.7

<学際系>		<理系>		<工系>		<医療系>		<農・水産系>		<生活科学系>	
項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ	項目	とても+まあ
専門	91.3	専門	95.1	専門	89.8	専門	93.5	専門	95.1	専門	94.4
趣味や旅行	90.3	趣味や旅行	82.5	趣味や旅行	83.7	趣味や旅行	87.7	趣味や旅行	89.5	趣味や旅行	92.3
クラブ	74.7	クラブ	67.8	情報処理	71.8	資格取得	83.7	クラブ	72.8	クラブ	73.3
語学	69.8	情報処理	67.6	クラブ	68.4	クラブ	77.9	ゼミ卒論	63.1	資格取得	71.5
情報処理	66.3	ゼミ卒論	51.3	資格取得	52.1	語学	50.9	資格取得	59.9	情報処理	63.1
資格取得	59.9	資格取得	49.9	語学	48.3	情報処理	46.8	語学	56.0	ゼミ卒論	54.8
ゼミ卒論	59.4	一般教養	47.3	ゼミ卒論	46.4	一般教養	40.9	情報処理	53.2	語学	54.7
一般教養	57.6	語学	44.7	一般教養	44.0	ゼミ卒論	34.5	一般教養	44.1	一般教養	51.8
大学外学習	24.3	大学外学習	11.5	大学外学習	13.9	大学外学習	13.9	大学外学習	16.6	大学外学習	22.4

## 9

## 大学入学前と現在とで、どんなことにギャップを感じるか(男女別・国公私別)

(とても+まあ%)

	全体	男	女	国立大	公立大	私立大
入学前のイメージとのギャップあり	69.8	66.0	71.2	68.1	69.1	70.9
やりたい学問分野と違う	45.1	46.1	44.6	45.7	46.2	44.5
講義がおもしろくない	70.0	76.9	67.4	72.7	64.2	68.7
授業に手応えがない	48.8	53.3	47.2	47.7	42.6	50.0
教員との交流が少ない	52.0	52.1	51.9	47.7	42.6	55.4
<大学での授業・教育 計>	56.0	60.7	55.5	56.0	49.8	58.0
気のあう友人が少ない	24.1	26.0	23.6	23.8	22.7	24.5
クラブ・サークルがつまらない	33.9	30.1	35.1	28.0	35.8	37.5
<対人関係 計>	29.0	28.1	29.3	25.9	29.2	34.9
就職状況が良くないようだ	35.6	25.1	39.1	41.8	36.0	31.5
全般的に大学がおもしろくない	29.4	30.3	29.1	26.4	31.0	31.1

## 10 大学入学前と現在とで、どんなことにギャップを感じるか(学部系統別)

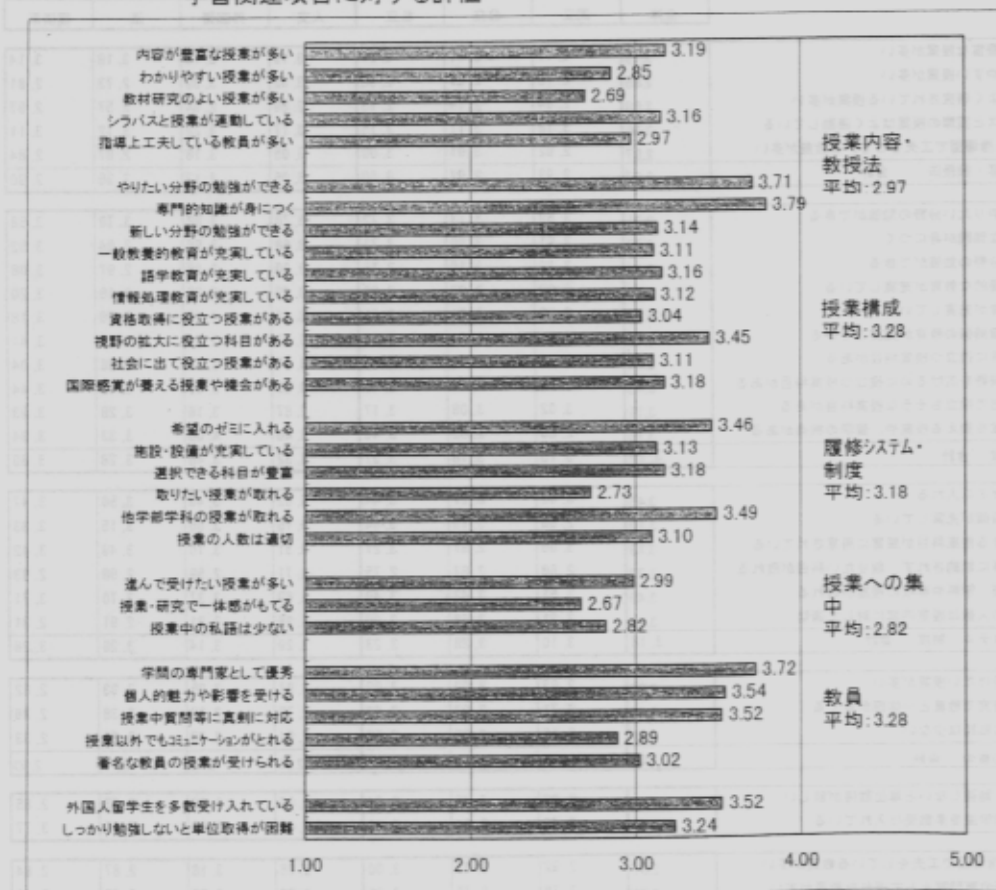
(ととも+まあ%)

	全体	人文学	外国語	法	経済系	教育	学際	理	工	医療	農・水産	生活・芸術
入学前とのイメージギャップあり	69.8	70.0	77.3	67.5	68.5	70.2	70.8	67.9	69.0	72.5	69.4	71.0
やりたい学問分野と違う	45.1	48.1	45.3	42.1	44.7	46.8	47.8	51.8	48.4	26.5	42.0	39.9
講義がおもしろくない	70.0	64.9	66.7	74.5	75.6	74.5	67.9	74.5	74.7	63.6	69.2	58.9
授業に手応えがない	48.8	47.4	41.0	55.4	57.9	51.9	49.7	41.7	47.0	34.4	50.9	38.7
教員との交流が少ない	52.0	52.6	50.0	60.4	59.8	43.1	47.9	47.2	54.1	44.6	40.8	49.7
<大学での授業・教育 計>	56.0	55.0	52.6	63.5	64.4	56.5	55.2	54.5	58.6	47.5	53.6	49.1
気のあう友人が少ない	24.1	22.6	24.3	29.4	26.5	17.8	27.0	25.8	24.7	21.8	21.9	23.7
クラブ・サークルがつまらない	33.9	35.7	38.8	35.8	36.7	29.2	37.5	26.1	28.4	35.7	27.4	34.0
<対人関係 計>	29.0	29.2	31.5	32.6	31.6	23.5	32.2	23.1	26.6	28.7	24.6	28.8
就職状況が良くないようだ	35.6	36.3	40.5	26.4	26.7	65.1	42.4	33.8	24.1	25.2	40.7	40.2
全般的に大学がおもしろくない	29.4	28.0	33.0	31.1	31.0	24.4	30.6	28.4	29.1	35.4	23.7	31.4

## 11 大学選択項目と大学生生活のギャップ

(ととも+まあ%)

選択項目	ととも+まあ 感じも	入学前 イメージ との ギャップ	やりたい 事と学び との ギャップ	大学での教育				小計	対人関係		自由 時間が もてない	就職状況 が良くない ようだ	大学生生活 が全般的 におもしろく ない
				講義が おもしろ くない	授業に 手応えが ない	教員との 交流が 少ない	友人数 が少ない		クラブ サークル がつまらない				
(a) 学習志向	67.4	37.7	63.7	44.9	49.9	52.8	23.0	33.7	28.4	54.6	33.0	26.2	
学問分野	69.8	39.9	66.2	46.1	49.7	54.0	22.5	33.0	27.8	51.8	35.9	26.6	
教授陣	64.9	32.6	58.3	42.7	46.9	49.3	23.3	35.6	29.5	53.2	35.8	23.6	
大学院	66.2	36.2	64.9	44.2	51.0	53.3	24.0	30.7	27.4	59.3	29.2	25.3	
施設設備	68.8	41.9	65.5	46.4	51.8	54.6	22.3	35.6	29.0	53.9	31.2	29.4	
(b) 大学情報志向	67.2	45.4	69.8	48.5	53.5	57.3	22.8	32.6	27.7	48.2	29.7	25.2	
総合大	68.5	45.3	70.9	50.1	54.5	58.5	24.6	32.4	28.5	48.8	34.8	26.7	
伝統	67.9	42.9	69.7	47.9	55.6	57.7	23.2	34.0	28.6	48.5	26.8	26.1	
以上平均	68.2	44.1	70.3	49.0	55.1	58.1	23.9	33.2	28.6	48.7	30.8	26.4	
有名大	72.4	48.7	75.0	51.2	55.4	60.5	27.6	34.8	31.2	47.3	29.8	31.0	
イメージ	69.1	49.6	71.1	49.6	52.5	57.7	24.6	35.3	30.0	45.9	28.9	29.3	
以上平均	70.8	49.2	73.1	50.4	54.0	59.2	26.0	35.1	30.6	46.6	29.4	30.2	
校風	61.3	41.8	65.2	46.6	50.4	54.1	18.0	29.5	23.8	51.0	28.7	18.4	
雰囲気	63.8	44.0	66.9	45.6	51.4	54.6	18.5	29.6	24.1	47.7	28.9	19.5	
以上平均	62.6	42.9	66.1	46.1	50.9	54.4	18.3	29.6	24.0	49.4	28.8	19.0	
(c) 難易度	71.4	45.7	71.9	49.9	52.5	58.1	25.0	34.0	29.5	48.9	38.6	30.8	
(d) 就職状況	72.1	45.7	73.0	48.2	55.7	59.0	24.4	32.7	28.6	53.1	17.1	30.2	
(e) 経済的要因	71.6	47.1	72.1	50.3	51.8	58.1	25.2	33.7	29.5	49.5	39.8	30.6	
自宅通学	70.1	45.7	70.2	49.1	52.1	57.1	23.7	34.8	29.3	55.9	38.4	31.1	
授業料	71.0	46.1	71.8	49.0	50.2	57.0	24.3	33.0	28.7	48.6	41.8	29.3	
家から出る	73.7	49.4	74.3	52.8	53.0	60.0	27.6	33.4	30.5	44.1	39.3	31.4	
合計	69.8	45.1	70.0	48.8	50.0	56.9	24.1	33.0	29.0	50.1	35.6	29.4	
最大/最小	120.2	151.5	127.4	123.7	118.8	121.7	153.3	118.0	128.2	121.8	244.4	170.7	



### 13 国公立別・学部系統別 学習関連項目の評価（その1）

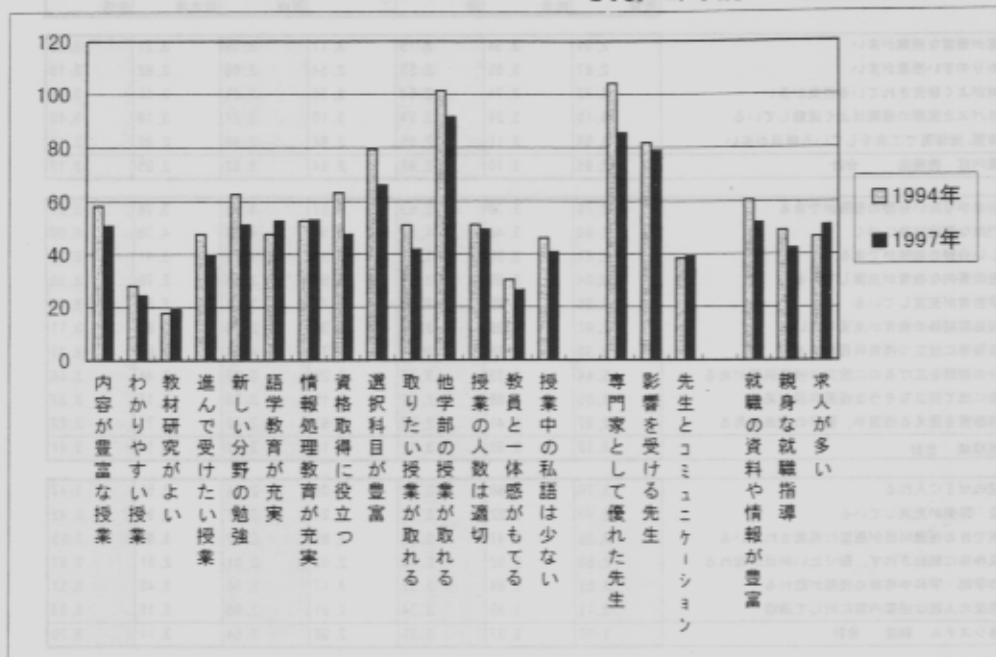
	全体	国立	公立	私立	人文	外国語	法	経済系
内容が豊富な授業が多い	3.19	3.17	3.11	3.21	3.19	3.19	3.18	3.14
わかりやすい授業が多い	2.85	2.73	2.87	2.93	3.02	3.09	2.73	2.81
教材がよく研究されている授業が多い	2.69	2.64	2.74	2.73	2.80	2.94	2.57	2.57
シラバスと実際の授業はよく連動している	3.16	3.18	3.11	3.15	3.17	3.22	3.12	3.11
教育面、指導面で工夫をしている教員が多い	2.97	2.92	3.01	3.00	3.05	3.18	2.87	2.84
授業内容・教授法 合計	2.97	2.93	2.97	3.00	3.05	3.13	2.90	2.90
自分のやりたい分野の勉強ができる	3.71	3.69	3.73	3.72	3.70	3.88	3.70	3.58
専門的な知識が身につく	3.79	3.91	3.80	3.71	3.68	3.96	3.84	3.52
新しい分野の勉強ができる	3.14	3.12	3.10	3.15	3.00	3.08	2.97	3.08
一般教養的な教育が充実している	3.11	2.99	3.03	3.20	3.29	2.97	3.18	3.20
語学教育が充実している	3.16	2.93	3.21	3.31	3.42	4.40	3.26	3.18
情報処理関係の教育が充実している	3.12	2.94	2.94	3.25	3.12	2.81	3.11	3.41
資格取得に役立つ授業科目がある	3.04	2.75	2.75	3.25	3.11	2.93	2.86	3.04
自分の視野を広げるのに役立つ授業科目がある	3.45	3.38	3.39	3.49	3.55	3.50	3.43	3.44
社会に出て役立つような授業科目がある	3.11	3.02	3.08	3.17	2.87	3.16	3.28	3.23
国際感覚を養える授業や、留学の機会がある	3.18	2.80	2.82	3.48	3.48	4.06	3.33	3.34
授業構成 合計	3.28	3.15	3.18	3.37	3.32	3.48	3.28	3.30
希望のゼミに入れる	3.46	3.47	3.57	3.44	3.52	3.40	3.50	3.47
施設・設備が充実している	3.13	2.66	3.15	3.44	3.15	3.06	3.15	3.33
選択できる授業科目が豊富に用意されている	3.18	3.08	2.97	3.27	3.31	3.10	3.49	3.42
定員枠等に制約されず、取りたい科目が取れる	2.73	2.68	2.87	2.75	2.71	2.59	2.98	2.93
他の学部・学科や専攻の授業が取れる	3.49	3.51	3.43	3.49	3.69	3.37	3.70	3.71
各授業の人数は授業内容に対して適切	3.10	3.21	3.58	2.99	3.25	3.31	2.91	2.81
履修システム・制度 合計	3.18	3.10	3.28	3.23	3.29	3.14	3.29	3.28
進んで受けたい授業が多い	2.99	2.93	3.00	3.02	3.07	3.25	2.93	2.82
授業や研究で教員と一体感もてる	2.87	2.71	2.93	2.62	2.78	2.88	2.38	2.36
授業中の私語は少ない	2.82	3.15	3.32	2.56	2.94	3.23	2.80	2.33
授業への集中 合計	2.82	2.93	3.08	2.73	2.93	3.12	2.70	2.50
しっかり勉強しないと単位取得が難しい	3.24	3.23	3.46	3.24	3.09	3.99	3.23	2.85
外国人留学生を多数受け入れている	3.52	3.72	3.34	3.40	3.41	3.98	3.63	3.77
教育面、指導面で工夫をしている教員が多い	2.97	2.92	3.01	3.00	3.05	3.18	2.87	2.84
学問分野の専門家として優れた教員が多い	3.72	3.78	3.75	3.68	3.76	3.82	3.69	3.49
個人的魅力や影響を受ける教員がいる	3.54	3.50	3.58	3.56	3.66	3.73	3.50	3.40
質問や意見に真摯に応じてくれる教員が多い	3.52	3.54	3.64	3.49	3.63	3.77	3.32	3.29
授業以外でも教員とのコミュニケーションがとれる	2.89	2.94	3.11	2.84	3.00	3.16	2.62	2.61
社会的に有名な教員の授業を受けられる	3.02	2.97	2.93	3.07	3.03	2.90	3.22	2.94
教員 合計	3.28	3.28	3.34	3.27	3.35	3.43	3.20	3.10

# 14 国公立別・学部系統別 学習関連項目の評価 (その2)

	教育	総合	理	工	医療	農水産	生活
内容が豊富な授業が多い	2.99	3.34	3.15	3.17	3.39	3.21	3.39
わかりやすい授業が多い	2.87	3.05	2.53	2.54	2.66	2.82	3.10
教材がよく研究されている授業が多い	2.72	2.74	2.54	2.56	2.81	2.65	2.85
シラバスと実際の授業はよく連動している	3.10	3.24	3.24	3.10	3.24	3.18	3.18
教育面、指導面で工夫をしている教員が多い	3.06	3.11	2.85	2.84	2.99	2.89	3.12
授業内容・教授法 合計	2.95	3.10	2.86	2.84	3.02	2.95	3.13
自分のやりたい分野の勉強ができる	3.70	3.79	3.63	3.57	3.95	3.76	3.97
専門的な知識が身につく	3.86	3.48	4.06	3.94	4.53	4.08	4.00
新しい分野の勉強ができる	2.87	3.59	3.25	3.29	3.51	3.41	3.35
一般教養的な教育が充実している	3.04	3.35	3.01	2.97	2.64	2.79	3.09
語学教育が充実している	2.86	3.35	2.83	2.79	2.54	2.55	3.00
情報処理関係の教育が充実している	2.91	3.26	3.23	3.32	2.70	2.67	3.11
資格取得に役立つ授業科目がある	3.30	2.75	2.54	2.71	4.04	2.88	3.31
自分の視野を広げるのに役立つ授業科目がある	3.44	3.73	3.23	3.20	3.22	3.44	3.66
社会に出て役立つような授業科目がある	3.05	3.08	2.72	3.15	3.53	3.10	3.37
国際感覚を養える授業や、留学の機会がある	2.87	3.41	2.57	2.63	2.42	2.72	3.22
授業構成 合計	3.19	3.38	3.11	3.16	3.31	3.14	3.41
希望のゼミに入れる	3.70	3.60	3.42	3.08	2.94	3.51	3.47
施設・設備が充実している	2.49	3.22	3.07	3.24	3.37	2.90	3.42
選択できる授業科目が豊富に用意されている	3.09	3.47	3.08	2.85	2.12	3.06	3.15
定員枠等に制約されず、取りたい科目が取れる	2.53	2.92	2.75	2.62	2.01	2.81	2.87
他の学部・学科や専攻の授業が取れる	3.58	3.69	3.81	3.17	1.86	3.42	3.51
各授業の人数は授業内容に対して適切	3.19	3.35	3.34	2.91	2.95	3.18	3.33
履修システム・制度 合計	3.10	3.37	3.21	2.98	2.54	3.14	3.29
進んで受けたい授業が多い	2.84	3.19	2.97	2.84	3.00	3.09	3.24
授業や研究で教員と一体感もてる	2.80	2.87	2.77	2.54	2.78	2.87	2.96
授業中の私語は少ない	2.85	2.94	3.15	2.58	3.05	3.01	2.96
授業への集中 合計	2.83	3.00	2.96	2.65	2.94	2.99	3.05
しっかり勉強しないと単位取得が難しい	2.93	3.01	3.50	3.69	4.14	3.16	3.17
外国人留学生を多数受け入れている	3.73	3.47	3.43	3.40	2.67	3.58	3.22
教育面、指導面で工夫をしている教員が多い	3.06	3.11	2.85	2.84	2.99	2.89	3.12
学問分野の専門家として優れた教員が多い	3.84	3.76	3.88	3.75	3.89	3.82	3.95
個人的魅力や影響を受ける教員がいる	3.58	3.67	3.46	3.33	3.47	3.59	3.63
質問や意見に真剣に応じてくれる教員が多い	3.46	3.68	3.59	3.43	3.63	3.64	3.67
授業以外でも教員とのコミュニケーションがとれる	3.08	3.19	2.92	2.64	3.01	3.18	3.02
社会的に著名な教員の授業を受けられる	2.75	3.21	2.96	2.99	3.28	3.01	3.23
教員 合計	3.28	3.44	3.27	3.16	3.37	3.35	3.44

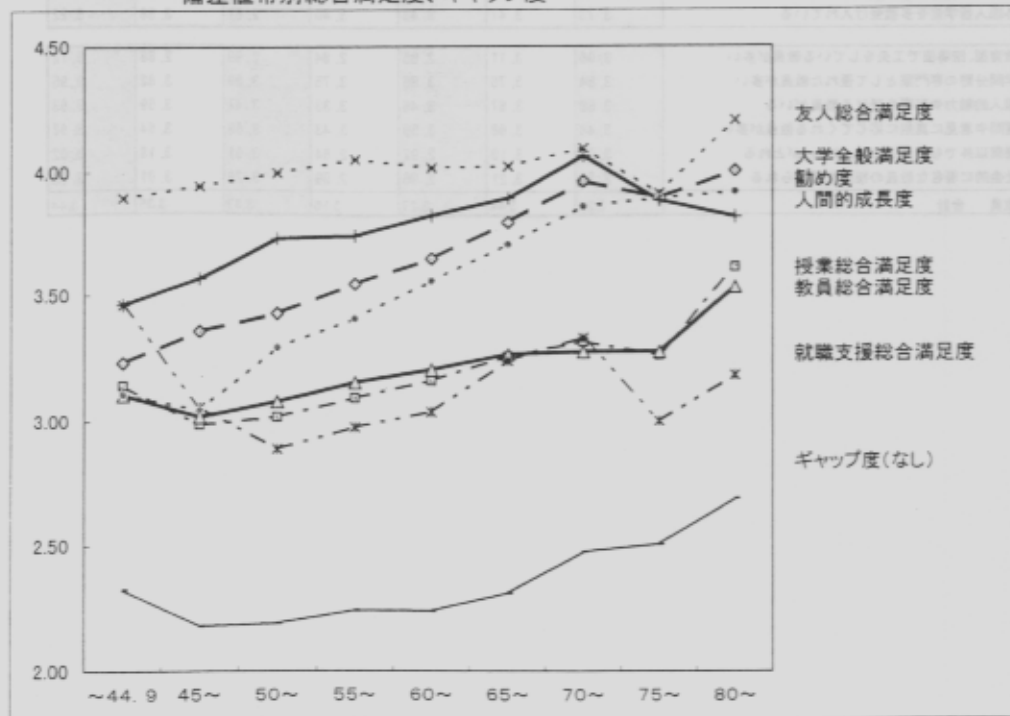
### 15 学習関連項目と就職に関する満足度 3年前との比較

「とても」=2、「まあ」=1で得点換算。最高値200



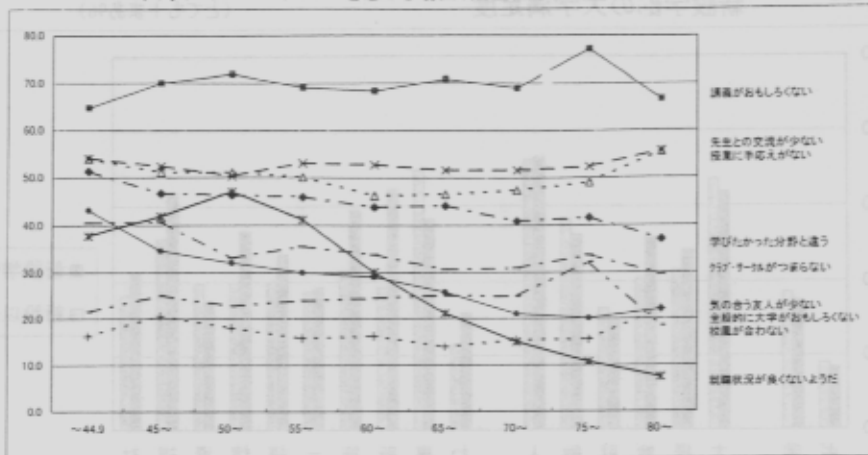
### 16 偏差値帯別総合満足度、ギャップ度

(とても+まあ%)



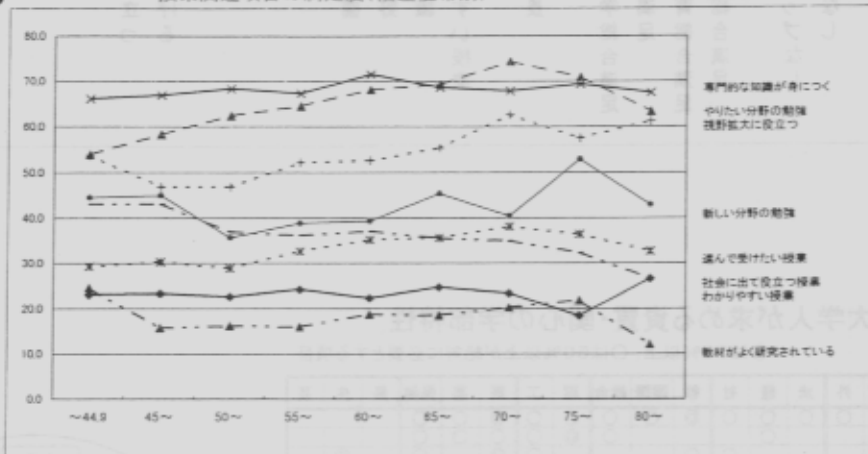
### 17 大学にイメージギャップを感じる場面(偏差値帯別)

(とても+まあ%)



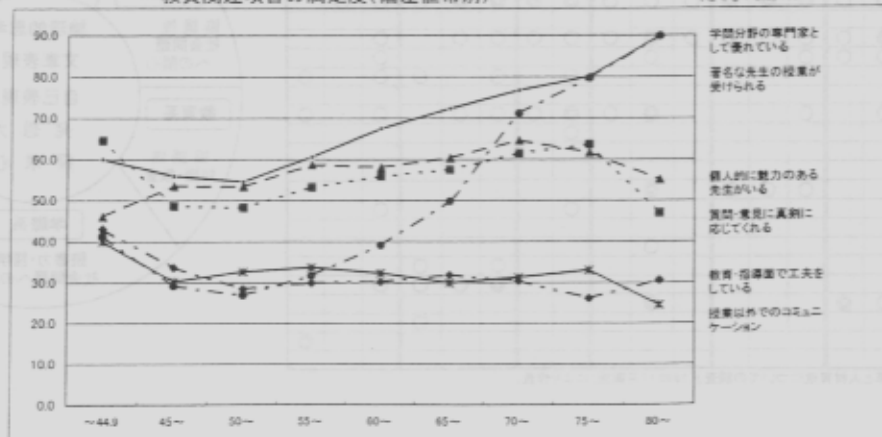
### 18 授業関連項目の満足度(偏差値帯別)

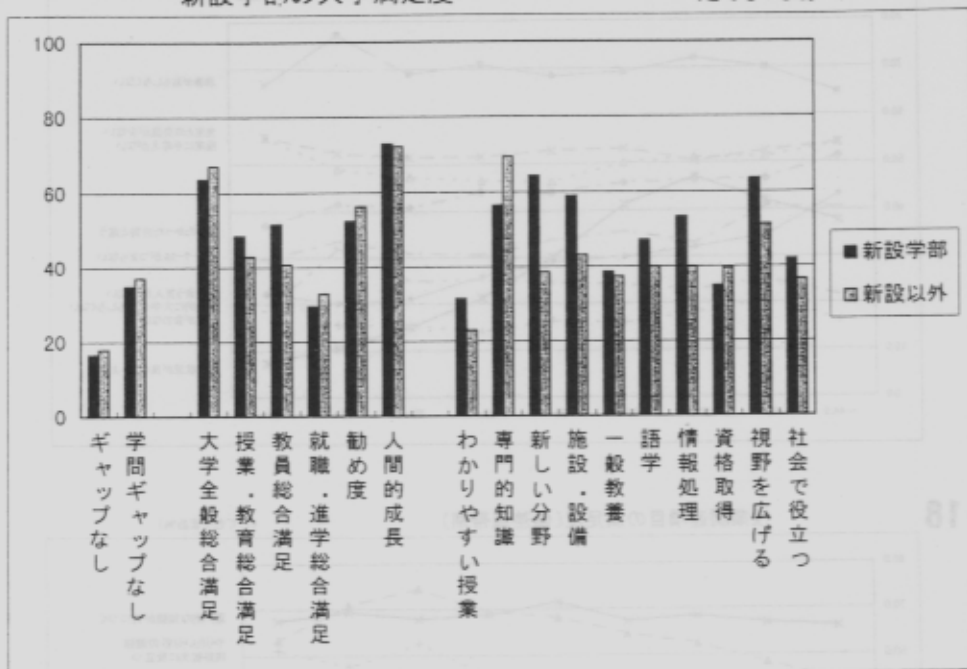
(とても+まあ%)



### 19 教員関連項目の満足度(偏差値帯別)

(とても+まあ%)





21 大学人が求める資質・関心の学部特性

◎は70%以上、○は50%以上が絶対に必要とする項目

	人文	外	法	経	社	教	国際	総合	理	工	医	薬	保健	農	生	芸術
1 自己表現力	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
2 探求心	○			○				○	◎	○	○	○	○			
3 協調性					○	○				○	◎	○	○		○	○
4 積極的態度										◎	○	○	○			
5 謙虚・まじめ											○	○	○			
6 人間性・良識											○	○	○			
7 知性・教養											○	○	○			
8 論理的思考力	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○
9 生活の規則性																
10 文章表現力	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○			
11 読書力	○	○	○				○								○	○
12 持続力									○				○			○
13 判断力																
14 発想力	○						◎	○	◎	○	○	○	○			○
15 数理能力									○							
16 パソコン操作																
17 機械・技術																
18 社会問題			○	○	◎		◎									
19 自然環境									○						○	
20 空間図形																
21 歴史							○									
22 人間心理											○	○	○			
23 生物							◎				◎	○	○	○	○	
24 語学	○	◎					◎									
25 運動													○			
26 美術																
27 音楽																◎



ベネッセ文教総研「教育改革と人材育成についての調査」(1998.11実施)により作成。



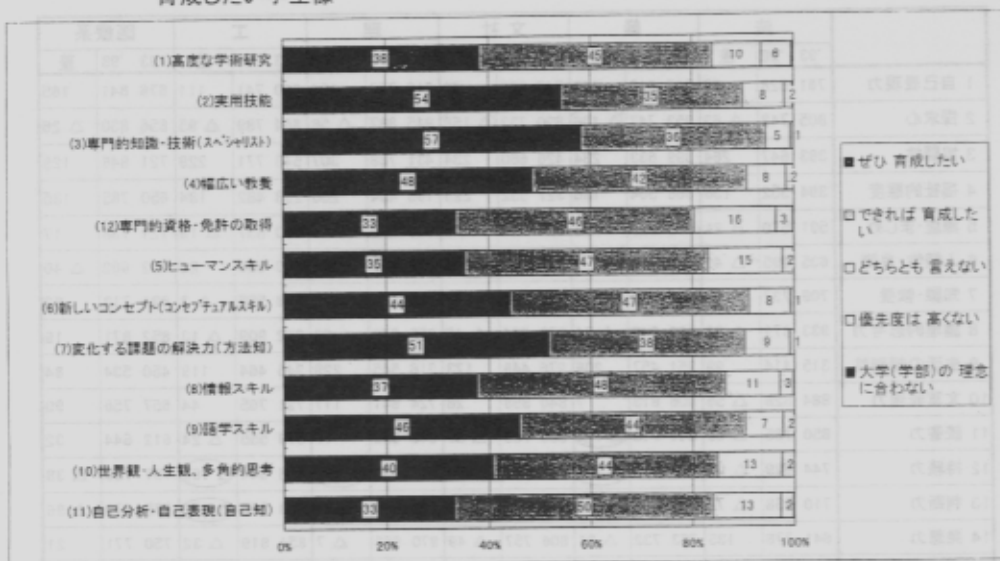
22 27の資質項目の学部系統別 平均点とその推移 85

	法			経			文社			理			工			医療系		
	'93	'98	差	'93	'98	差	'93	'98	差	'93	'98	差	'93	'98	差	'93	'98	差
1 自己表現力	761	828	67	707	817	110	746	806	60	619	773	154	630	741	111	676	841	165
2 探求心	805	742	△ 63	853	747	△ 106	890	732	△ 158	945	887	△ 58	884	789	△ 95	856	830	△ 26
3 協調性	383	647	264	399	633	234	426	660	234	431	738	307	543	771	228	721	846	125
4 福祉的態度	394	552	158	368	504	136	327	552	225	188	454	266	298	482	184	650	785	135
5 謙虚・まじめ	591	570	△ 21	573	587	14	625	620	△ 5	600	545	△ 55	570	557	△ 13	721	738	17
6 人間性・良識	635	595	△ 40	536	543	7	579	581	2	377	569	192	480	506	26	702	662	△ 40
7 知識・教養	709	737	28	682	680	△ 2	727	745	18	516	591	75	558	555	△ 3	631	713	82
8 論理的思考力	933	871	△ 62	923	849	△ 74	879	834	△ 45	955	978	23	922	909	△ 13	852	871	19
9 生活の規則性	315	414	99	251	457	206	276	449	173	316	545	229	345	464	119	450	534	84
10 文章表現力	884	828	△ 56	806	813	7	840	868	28	724	841	117	721	765	44	657	756	99
11 読書力	850	785	△ 65	841	718	△ 123	850	763	△ 87	642	659	17	579	555	△ 24	612	644	32
12 持続力	744	689	△ 55	763	660	△ 103	800	700	△ 100	875	750	△ 125	806	644	△ 162	797	759	△ 38
13 判断力	710	638	△ 72	705	597	△ 108	674	632	△ 42	706	659	△ 47	703	596	△ 107	775	679	△ 96
14 発想力	641	776	135	763	732	△ 31	806	757	△ 49	870	863	△ 7	851	819	△ 32	750	771	21
15 数埋能力	163	276	113	496	500	4	309	385	76	717	750	33	745	663	△ 82	439	529	90
16 パソコン操作	156	492	336	400	625	225	265	553	288	458	704	246	570	663	93	411	557	146
17 機械技術	77	388	311	165	477	312	142	446	304	469	727	258	578	717	139	495	612	117
18 社会問題	839	827	△ 12	829	789	△ 40	576	735	159	191	500	309	301	487	186	388	569	181
19 自然環境	399	526	127	470	531	61	519	602	83	492	728	236	484	555	71	548	637	89
20 空間図形	47	163	116	159	266	107	176	224	48	472	568	96	444	422	△ 22	242	305	63
21 歴史への関心	674	519	△ 155	650	457	△ 193	651	675	24	154	318	164	179	337	158	171	377	206
22 人間心理	540	396	△ 144	494	386	△ 108	658	649	△ 9	163	272	109	256	287	31	580	714	134
23 生物への関心	99	155	56	129	226	97	219	295	76	344	613	269	273	361	88	769	840	71
24 語学への関心	581	621	40	719	633	△ 86	787	762	△ 25	723	659	△ 64	719	681	△ 38	730	643	△ 87
25 運動への関心	69	156	87	64	230	166	137	340	203	230	318	88	207	404	197	242	441	199
26 美術への関心	69	129	60	86	246	160	269	392	123	208	273	65	233	398	165	226	364	138
27 音楽への関心	37	95	58	47	136	89	186	267	81	72	159	87	81	168	87	70	198	128
N =	203	58		235	128		342	134		323	22		581	84		889	82	

資料 93年「大学の各専門分野の進学適性に関する調査研究報告書」(大学入試センター、H5. 3刊)  
98年 ベネッセ文教総研「教育改革と人材育成についての調査」(1998年11月実施)

数値は、絶対が必要=1、必要である=0.5とした%表示。全ての数値は1000倍している。

## 育成したい学生像



## 24

## 大学生の大学進学・学部選択理由

(とてもあてはまる%)

	全体	偏差値帯			学部系統										
		50未満	50~60	60以上	人文	外国語	法	経済	教育	学際	理	工	医療	農	生活科
<b>&lt;大学進学理由&gt;</b>															
専門的知識・技術の修得	45.1	41.6	45.0	45.6	34.6	58.9	34.5	28.7	56.5	37.0	52.5	56.5	84.9	62.3	54.5
幅広い教養	29.6	25.2	28.0	32.0	35.0	35.4	32.5	30.4	24.2	40.4	23.1	21.4	17.1	24.0	30.2
資格・免許の取得	27.8	27.2	33.2	22.0	25.7	18.1	19.9	20.6	61.5	20.5	16.4	13.5	82.0	19.7	35.4
専攻学問の研究のため	36.4	29.1	35.6	38.2	40.1	50.2	16.8	21.7	37.8	36.4	48.5	37.5	36.9	52.3	42.0
<b>&lt;学部選択理由&gt;</b>															
実社会で役立つことが学べる	20.5	20.7	19.3	21.8	8.5	16.7	45.9	42.7	8.3	13.5	4.3	17.0	16.0	12.3	20.8
専門的・技術的なことが学べる	38.5	44.6	39.5	36.7	29.3	45.1	25.6	24.1	33.5	35.7	54.0	60.8	62.1	65.3	48.0
資格の取得に便利	35.2	28.7	35.2	25.1	30.8	22.4	29.2	22.1	63.6	19.2	17.3	13.5	68.1	17.9	37.4

## 25

## 教育改革の推進状況と大学生の満足度

大学の回答数字は大学生調査で対象とした大学全体の「これまででも力を入れてきた」平均%。  
大学生の回答数字は5段階評価のポイントで、最も高い。

項目	大学回答	大学生回答	
		大学生調査項目	大学生回答
教養教育	46.0	・一般教養的教育が充実している	3.11
専門教育	62.1	・専門的知識が身につく	3.79
		・学問分野の専門家として優れた教員が多い	3.72
資格・免許の取得	18.3	・資格取得に役立つ授業がある	3.04
		・わかりやすい授業が多い	2.85
教授方法の改善	15.2	・教材がよく研究されている授業が多い	2.69
		・シラバス授業が講義している	3.16
小人数教育	36.7	・教育面で工夫をしている教員が多い	2.97
		・各授業の人数は適切である	3.10
厳格な成績評価	11.0	・しっかり勉強しないと単位の取得が難しい	3.24
先進的学際研究	29.9	・新しい分野の開拓ができる	3.14
施設・設備の充実	34.5	・施設・設備が充実している	3.13
学問間単位互換	11.3	・他学部専攻専攻の授業が取れる	3.49
海外研修・交流	31.0	・国際感覚を養える	3.16
		・留学生を多数受け入れている	3.52
インターンシップ	6.8	・インターンシップに積極的	2.45
奨励支援	18.3	・奨励・進学支援総合満足度	3.03
就職指導	36.2	・就職・進学支援総合満足度	3.03

## 育成したい学生像(設置者別/偏差値帯別/女子大)

	全体	設置者別			偏差値帯別			女子大	女子大以外
		国立	公立	私立	50未満	50-60	60以上		
1 高度な学術研究		○	○				○		
2 実用技能	○	○	○	○	○	○			○
3 専門的知識・技術(スペシャリスト)	○	○	○	○	○	○	○		○
4 幅広い教養		○					○	○	
12 専門的資格・免許の取得									
5 ヒューマンスキル									
6 新しいコンセプト(コンテクチャルスキル)		○	○				○		
7 変化する課題の解決力(方法知)	○	○	○				◎		○
8 情報スキル									
9 語学スキル			○					○	○
10 世界観・人生観、多角的思考								○	
11 自己分析・自己表現(自己知)								○	

ぜひ育成したい回答が70%以上を◎、50%以上を○で表している。

## 育成したい学生像(大学類型別)

	全体	国立大			公立大			私立大					
		難関	総合	地方	専科	都市部	地方	専科	東京	関西	近畿	地方部 私立大	
1 高度な学術研究		○	○										
2 実用技能	○	○	○		○		○	○					○
3 専門的知識・技術(スペシャリスト)	○	○	○	○	◎		○	◎	○		○		○
4 幅広い教養		○	◎	○			○			○			
12 専門的資格・免許の取得													
5 ヒューマンスキル													
6 新しいコンセプト(コンテクチャルスキル)		○	◎				○	○					○
7 変化する課題の解決力(方法知)	○	◎	◎	○	○		○	○	○	◎			○
8 情報スキル													○
9 語学スキル		○	○						○	○	○		○
10 世界観・人生観、多角的思考		○	○						○	○	○		○
11 自己分析・自己表現(自己知)		○	○						○	○	○		○

ぜひ育成したい回答が70%以上を◎、50%以上を○で表している。

## 育成したい学生像(学部系統別)

## &lt;国公立大&gt;

	全体	人文 科学	外国語	法	経済	社会	教育	国際	総合 科学	理	工	医・歯	薬	保健 衛生	農水	生活 科学	芸術
2 実用技能	○		○			○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○
3 専門的知識・技術(スペシャリスト)	○	○	○	◎		○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
4 幅広い教養		○	○	○							○	○	○	○	○	○	
12 専門的資格・免許の取得						○						○	◎	◎			○
5 ヒューマンスキル						○						◎	◎	◎			
6 新しいコンセプト(コンテクチャルスキル)		○	○	○				◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	
7 変化する課題の解決力(方法知)	○	◎	○	◎	○			◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	
8 情報スキル									○								
9 語学スキル		○						◎			○	○	○		○		○
10 世界観・人生観、多角的思考		◎	○			○	○	◎			○	○	○		○		◎
11 自己分析・自己表現(自己知)		○	○					◎						○			○

ぜひ育成したい回答が90%以上を●、70%以上を◎、50%以上を○で表している。サンプル数が7以下の学部系統には▼を付した。サンプル数が3以下の系統は空欄とした。

## &lt;私立大&gt;

	全体	人文 科学	外国語	法	経済	社会	教育	国際	総合 科学	理	工	医・歯	薬	保健 衛生	農水	生活 科学	芸術
2 実用技能	○		○		○	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○
3 専門的知識・技術(スペシャリスト)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 幅広い教養		○							○				○				
12 専門的資格・免許の取得												○	◎	◎			○
5 ヒューマンスキル												◎	◎	◎			
6 新しいコンセプト(コンテクチャルスキル)												○	○	○			
7 変化する課題の解決力(方法知)	○	○			○	○			○		○	○	○	○	○		
8 情報スキル					○	○											
9 語学スキル		○	◎					◎					○	○			
10 世界観・人生観、多角的思考		○						◎	○			○	○	○			○
11 自己分析・自己表現(自己知)								◎						○			○

ぜひ育成したい回答が90%以上を●、70%以上を◎、50%以上を○で表している。サンプル数が7以下の学部系統には▼を付した。サンプル数が3以下の系統は空欄とした。

## 29 大学の機能・役割、教育改革の方策

### 各高等教育機関の多様化・個性化

大学は、それぞれの理念・目標に基づき、総合的な教養教育の提供を重視する大学、専門的な職業能力の育成に力を置く大学、地域社会への生涯学習提供の拠り所を置く大学、最先端の研究を志向する大学、また、学部中心の大学から大学院中心の大学など、それぞれの目指す方向の中で多様化・個性化を図りつつ発展していくことが重要である。

### 教育内容の在り方—課題探求能力の育成—

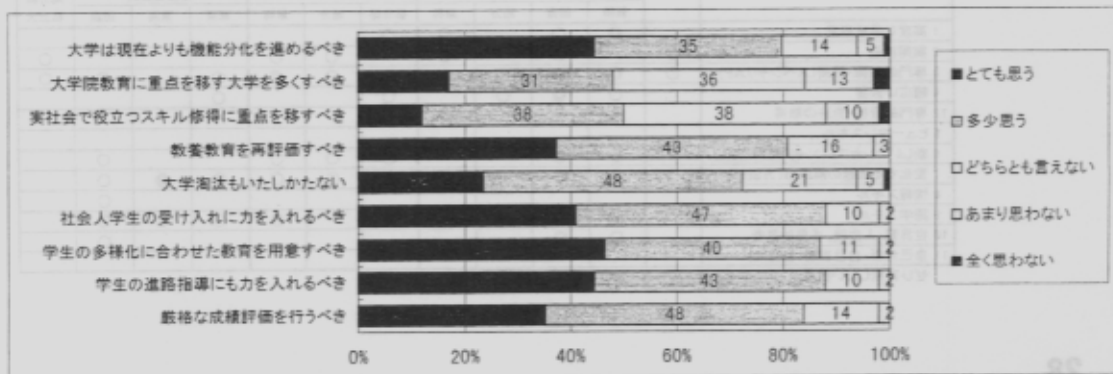
社会の高度化・複雑化等が進む中で「主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探求し、幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力（課題探求能力）の育成が重要である」という観点に立ち、「学問のすそ野を広げ、様々な角度から物事を見ることが出来る能力や、自主的・総合的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる」という教養教育の理念・目標の実現のため、授業方法やカリキュラム等の一層の工夫・改善、全教員の意識改革と全学的な実施・運営体制を整備する必要がある。

この際、専門教育においても教養教育の理念・目標を踏まえた教育を展開することにより、教養教育と専門教育の有機的連携の確保を図っていくことが重要であることを十分に認識しなければならない。

大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(平成10年10月)より、下線は文教経研。

## 30 将来日本の大学はどうか(全体)

(96)



## 31 将来日本の大学はどうか(大学種別)

とても思う(%)

	全体	設置者別			偏差値帯別			学部系統別					国立大			私立大		
		国立	公立	私立	50以下	50~60	60以上	文・外・社	法・経・商	教員養成	理・工・農	医・歯・薬	難関	総合	地方部	主要東京	主要関西	地方部
大学は機能分化を進めるべき	43.9	44.1	46.5	43.6	44.4	36.4	48.5	38.7	37.1	37.0	39.7	48.8	70.8	36.4	32.7	31.4	79.8	47.5
大学院教育重点の大学を多くすべき	16.7	25.4	24.4	12.3	14.2	15.7	29.0	12.2	17.2	18.5	26.7	20.7	32.3	36.6	18.6	17.1	4.3	12.7
社会で役立つスキル修得に重点を移すべき	11.8	5.5	7.0	14.7	15.6	10.8	8.5	8.0	19.7	3.7	8.9	8.1	7.7	6.8	4.4	7.1	6.4	15.2
教養教育を再評価すべき	36.9	48.1	36.0	32.8	27.8	33.8	39.1	37.3	31.2	37.0	34.2	24.4	49.2	45.5	52.2	42.9	31.9	27.0
大学淘汰もいたしかたない	23.3	23.2	32.6	22.2	17.2	22.7	36.7	22.2	24.3	18.5	25.3	32.9	44.8	22.7	11.5	25.7	34.0	17.6
コア科目を設定すべき	20.2	24.8	22.1	18.3	18.3	19.5	23.7	14.7	22.6	22.2	25.3	20.7	24.6	21.8	23.0	22.9	34.0	16.7
社会人学生の受け入れに力を入れるべき	40.8	36.2	40.7	42.4	39.6	42.0	33.1	45.3	40.9	40.7	34.9	28.0	32.3	50.0	35.4	32.9	43.8	40.7
学生の多様化に合わせた教育を用意すべき	45.5	39.8	25.8	50.1	53.6	40.5	30.8	48.0	44.1	48.1	35.6	28.8	29.2	43.2	46.0	32.9	44.7	55.4
将来設計支援の進路指導を重視すべき	44.0	31.9	32.6	47.9	48.5	40.5	25.4	42.0	42.5	37.0	28.8	31.7	30.8	36.4	31.9	34.3	44.7	53.9
厳格な成績評価を行うべき	34.8	44.9	44.2	29.9	23.7	33.2	44.4	23.3	32.3	37.0	42.5	48.3	44.6	50.0	41.6	29.6	31.3	24.5

## 高大接続を考慮した高校のグランドデザイン

大学改革によって、大学は「機能分化・種別化」が起こる。また、大学の種別化・機能分化が進むに連れて高校(内)の多層化が徐々に起こり、2010年代の教育課程を迎えるときには、下記のような高校(内)の多層化分類が顕在化するものと思われる。

### 高校の多層化

分類		構成比	高大接続パターン	主な要件
普通科 (Academic school)	学校選択 必修制高校	20%	競争選抜型入試 (competitive)	個別学力 試験
総合学科 (Comprehensive school)	多様な選択制、ある いは単位制高校	60%	入学要件選抜型 入試 (selective)	総合問題・ 面接・ 論文など
専門学科 (Vocational school)	職業教育を主体 とする高校	20%	開放入学制 (open-door)	センター 試験  高卒

## 33

### <大学の機能分化と高校の多層化>

21世紀、社会の変化に主体的に対応し、自ら課題を設定し、幅広い視点から柔軟に、総合的な判断が下せる人材を育成していくためには、「幅広い教養(道徳・倫理・哲学・歴史、自然科学など)と「専門知識」のバランスが重要となる。

教養教育(リベラルアーツ)専門の大学、高度職業人の育成を専門とする大学、高度学術研究を中心とする大学という機能分化が考えられるが、どの方向を目指すに当たってもリベラルアーツ教育の強化があって、総合力が発揮できるものとなる。

機能分化 種別化	高度学術研究	高度職業人育成	教養重視
3割 競争選抜型 (competitive)	◎	○	△
6割 入学要件選抜型 (selective)	○	◎	◎
2割 開放入学型 (open-door)	×	△	△

18歳人口の減少  
現在 155万人  
10年後 120万人に

競争選抜型の大学ほど  
幅広い基礎・基本の修  
得が不可欠となる。

高校の多層化